

人倫訓蒙圖彙

三

15

396



始



飛
集

人倫訓蒙彙

三

他業部 茶業目

茶師

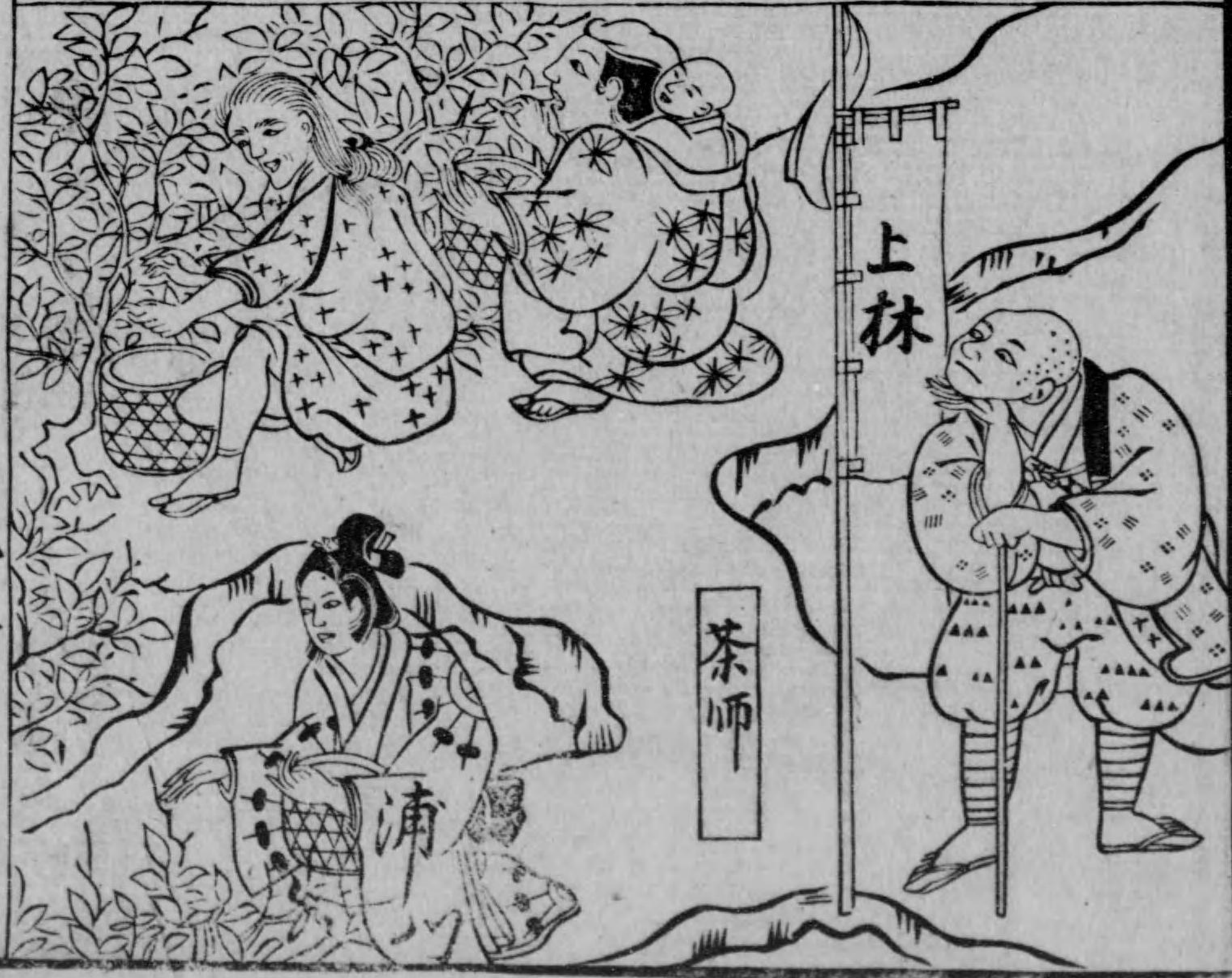
茶はのりうりよりこれの建仁寺の用と
 榮西定國小入て茶の實とて入海船せり又船の上
 人梅庵の茶樹ありとや中なるより茶
 ありけし山の傍坊茶樹つらて業とせりといひの
 ちてありては好ま居の里小植ひらわく英風あり
 ありしあり茶の法式はてまりて世よはに
 ありてありて都よりとつてなるなり

農夫

農夫

内交

やさしくもあめが
 らもみちり哉りあか
 るん **耕** 耕
 他ハ盤た人王吐以子
 あまどまうとも又
 らるの **耕** **耕**
 ありてもつりそ
 思海に王化所と
 ぐや河のち護文の具
 少つるはけえり
 以國への毎日白
 除あり又茶と善



種蒔 かまふりてこ
 ごま植て林納田
 一後為病よわれ
 ぬちとりのやまは
 思ともちのぐ
 らうたてり
田植 女れ業あり小
 じ女とらあはる
 こびらうりして
 ぬかくし急や
 一の **耕** **耕**



後とりの糸の時の文殊
尚几時の地を稲を
花弁種よりあり付た
善賢飯の時の親世を
弁たよりとま

縮搔 臼引ひつり回と
かたの糸をさのくを
ととつとつとつとつと
つとつとつとつとつと
て一風あつとつとつと
牛飼 草刈牛を
食物よりつとつとつと

農人



後とりの糸の時の文殊
て三路れ草刈種を
つとつとつとつとつと
うとつとつとつとつと
つとつとつとつとつと

樵史 左系藤原も雄
より業とかけさ出り
ハ東市京二取發る
角妙つとつとつとつと
りよつとつとつとつと
里より松本楊枝本と

たねま



りん水よ湯とまのぐよ
 ひがるん人あまか
 とくはれは家あまか
 上ろもろりあくもか
 ろひも危あつた救百む
 家とけ後推るは
 て格とつてふ業花と
 ひも鹿とかつりさ
 も母つてろりあまか
 とのあつるあ
 筏師 国あまの伐
 ぐて川水ようり



ありと組合えられに
 糸竿とくくんとと糸
 師とらえお都り
 てまも中あも盛
 ろる舟川の糸あまよ
 考
 燈籠 ひんひんあまの
 業とくえれ酒と
 海色のなるもさ
 ろ海人なるもさ
 汲海人なるもさ
 海あて汲あまよ

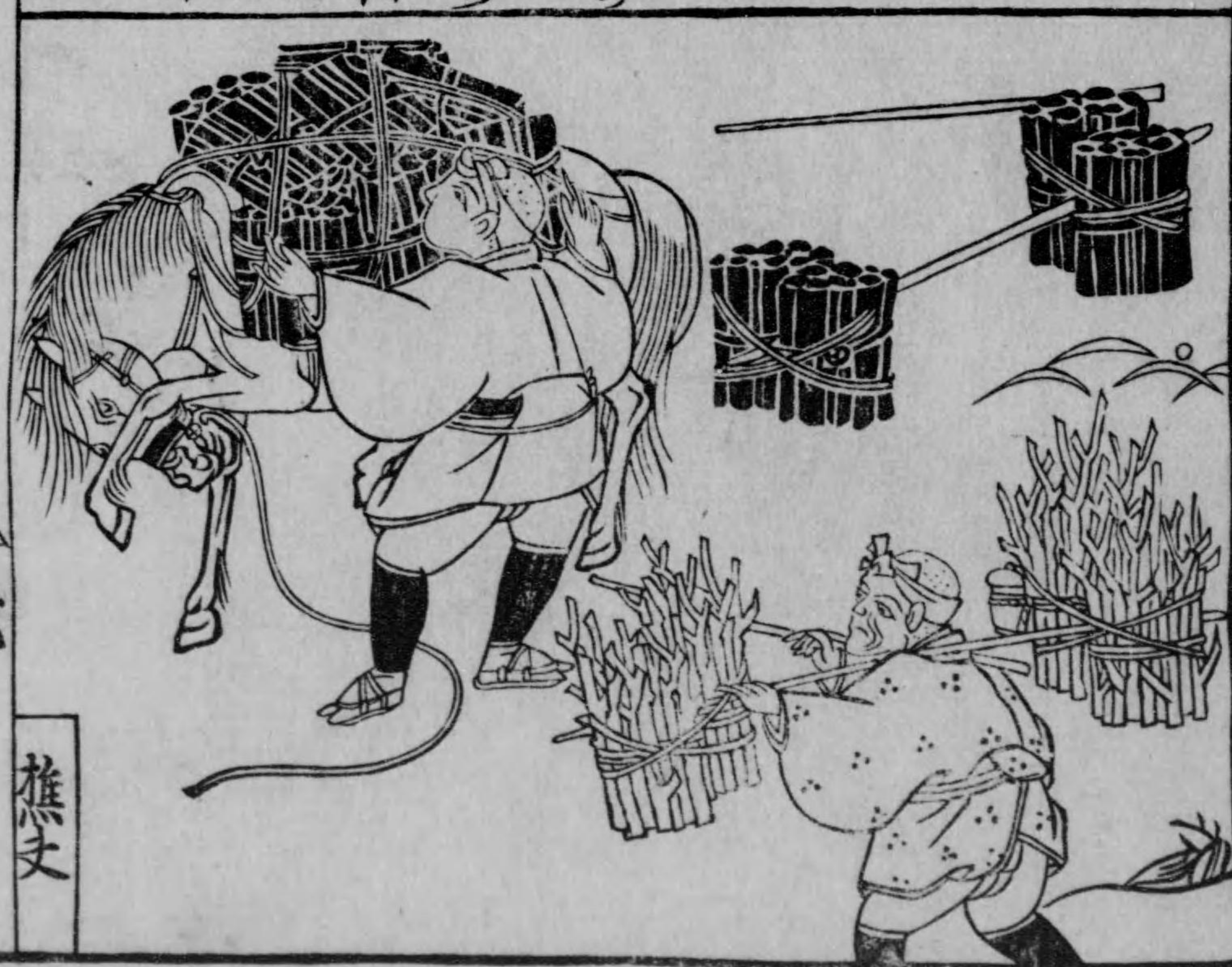


とりてしとせと焼ゆ影
 ころせと文と塩よれ花
 ともりりり海う塩
 やりありとぬらうら
 一とまああり人あ
 影まこころ海まあ
 焼ゆもこまおろま
 のげらるありの風ま
 づいこころぬくろ風
 持とあまは又らこ
 らんこのおのいゆ
 金乃糖とくいら



牛飼

あひーあんとら
 をめておろし
 泳どろどろ
 海守 近江橋や塩橋
 乃後一の海し
 是の海田は海なれど
 やとく海橋われま
 踏人のこれよあ
 一ののちのま橋の
 らかこころり
 海らまのの
 舟後よとぬくあり



樵夫

の舟の役をみるれは
 よめめて舟のうきなら
 れ川舟の海もり技お
 ろして船と遠くこ
 れとて舟ありは
 案内舟名の諸人舟
 場よううらひは
 後と舟もやこら
 こあもて舟と
 舟ありとれらあり
 後と舟に舟
 舟と舟と舟は



草妻女

舟の舟とためなる
 舟の舟とためなる
 舟の舟とためなる
 舟の舟とためなる

伏見下船 伏見より
 坂下へ舟を舟
 十三里と舟一舟
 舟して舟の舟
 舟より舟の舟
 舟より舟の舟



石妻女

ありありとれとりの
 管おやうもととと
 泳ど海とくくもはじ
 き業あり

漁人 海の捕師あり
 釣針と糸細哉ねら
 一切の鱗目よあや
 とまよとくくはくは
 るのあ



船政 船人のやまは
 めぬ海ようくみ風哉
 使るこさざり船人と
 えあつどもあやぐも業
 かりあつ内は目わ
 とよあつぐも目術よ
 うらりそ岩打のり
 枕とくつた子ぬの危
 うまのりも或内は
 ひくくもあまものが
 つまんとらまらとく
 あり船くくくも



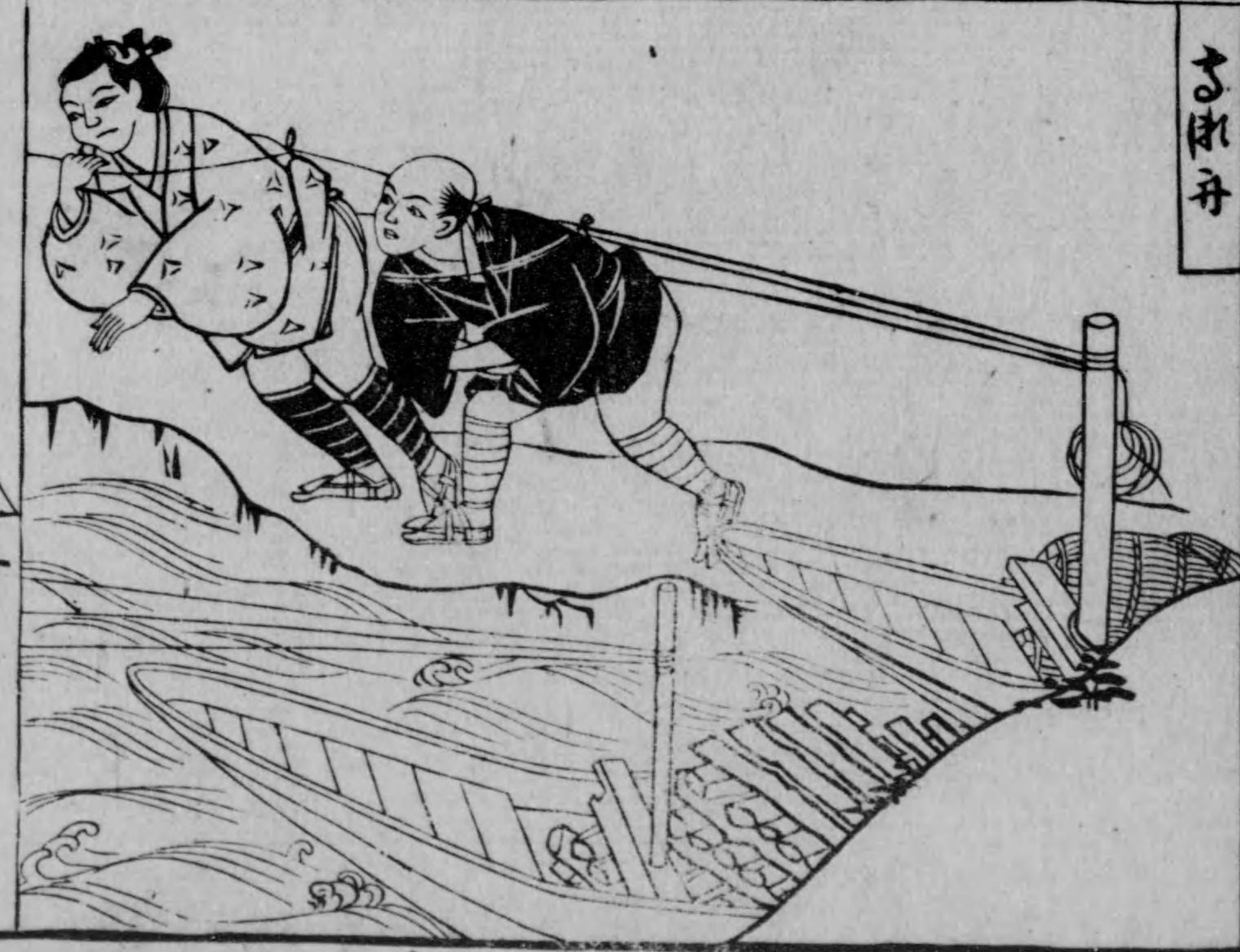
塩焼

船中もえつと色どは陰気
 けむらうらむ心なにも
 只一燈よらんかこよつ
 く時又挿ぐさいおか
 つまひ思ふらうりのあ
 しめくめくめくめく
 しとどとらあ
 物巻 子巻よ船よ
 うあわもいれさのつみ
 とあうおええええ
 ーーうじさるるうらと



舟守

と巻こもむさあぐら
 不徳らるるうらあみ
 然るり飛を越え
 りもれええええ
 とぬいあもええええ
 飛巻あかりむい巻の
 沢川の物をまてうらう
 絲長あそ、まらちうさ
 に飛をまんけしけさは後
 娘の二まを二まよ一字が
 身をこむるあし功かに
 うつてうらみしわなう



舟引

船のありとぬ
 縦として船をかざり
 浪人さぬぐさき
 して人衆の船十二艘
 と一縦とさき中一人
 らざらつとありとれ
 と若指とらぬ衆とさ
 とらぬ衆の一番りは
 くと一のもの二とさ
 ちりふありあり
 へがらとありとさひ

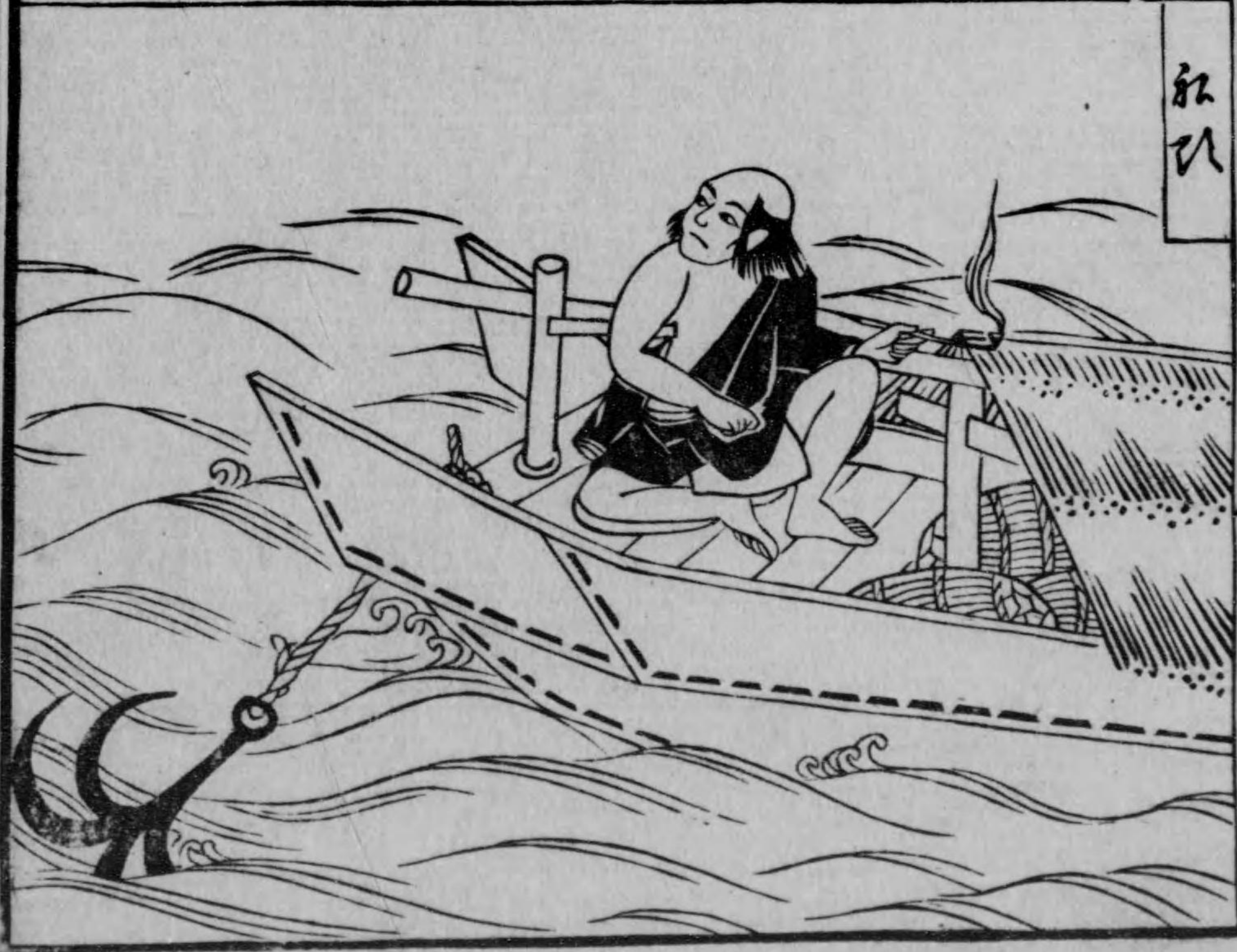


船師 持人ともり
 船と長船師とさき
 とらつとさきとさき
 とらつとさきとさき
 子乃飛とさきとさき
 舟のありとさきとさき
 が中の人衆のさきとさき
 報せとさきとさき



そのむらひ何となく
 かまらんや一切のま
 生ひみかこれぞ此種
 類のれども愚服くら
 りもたごえらつりか
 一魚あつて業とつ
 くり野々々々々々
 哉こゝろよつとよつと
 ぐーあゝあゝあゝ

和以



織師 かみよ 業と

しとれとむの業
 と極し替とやあ
 つるうそれと煮
 してととるはまり
 け作業ありく殺
 けり 戒律の傍
 緞と麻よまかれ
 とは織のりやあ
 炭焼 すす あやられ
 織の業とそらら
 ついで観とれがや

持き



しつてくらせとつらふ
ねくもりらむとれを
あつ子つら高下り塘
川池の上も念毎三系
とん丁を水とつぐり
あり

去置師 びくが陽秋
ねとどめあふらやけ子
細工ふ妙たつらうた地
鈴よるるをのねの儀儀
枝海子里いつら大肉よま
ら附ハ鳥慣子ね米一たま

とありは後家竹町
泳乃 泳よ上右りれ
おなり

飛師 危ちの素多
の池作らそと由あり
系ハ二十とるれ南門の
泳子の飛町はそん儀系
大坂ハと種橋ありとれ
と作らあり

焼物師 去置の焼物系
碗茶入花入壺四ホを
ふわり肥おの衣津



ちどめくして都下
 ねのくもあぐにありに
 室多羽山岸池 粟田口
 ありありとと陶令
 写に陶とよませり
 火桶作 公孫 大桶ハ素
 らの歩門に味よりま
 しろくも標大桶より
 後成に化ありら松の
 色に深のそくに化り
 人の抱て寝ものあり
 浴敷にだいておても



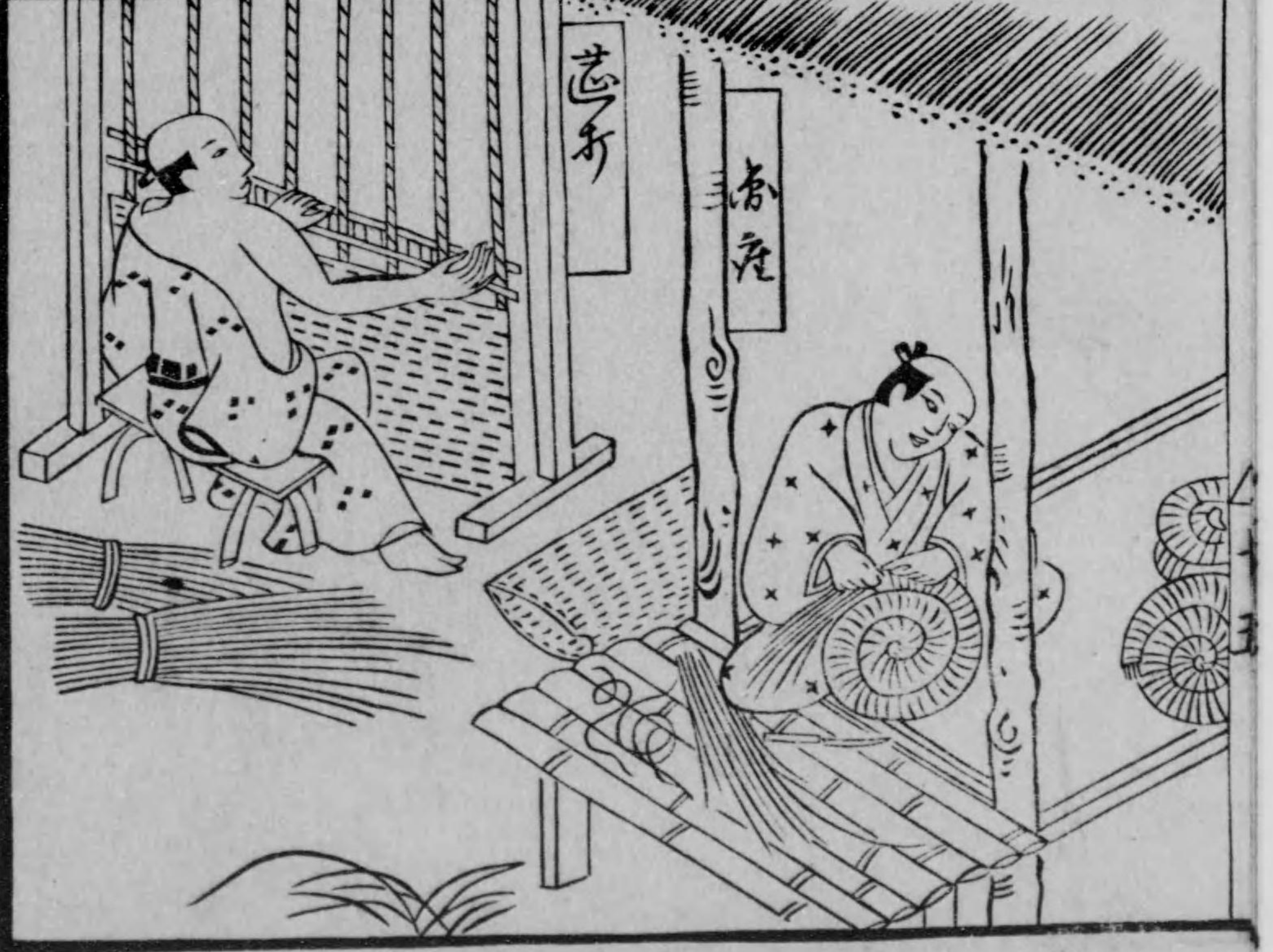
錦印

ぶへゆるさぬ火桶ハ
 ちんすよ相火おけとふ
 ものわり定家作といふ
 外宿打 上炎 五表
 ぬくもとと氏家業
 うんて都めりて舟
 波をいりられと道
 子夜ほよつらうの多
 子物あり縁道は都
 ねのてくもとと遠く
 其外夷中よりもい
 とあり



炭焼

白隠 毎朝も侍
 周易の伏羲よもゆり
 これよりれりて周易
 世おの法あり周易
 加え我の保憲天文
 志す一も徳ありとも
 六他はよなり安陸
 お侍ともしり都ふ
 不くに人あり俗徳
 白隠もあつて信
 らく作務世に徳
 けあられ河白で徳



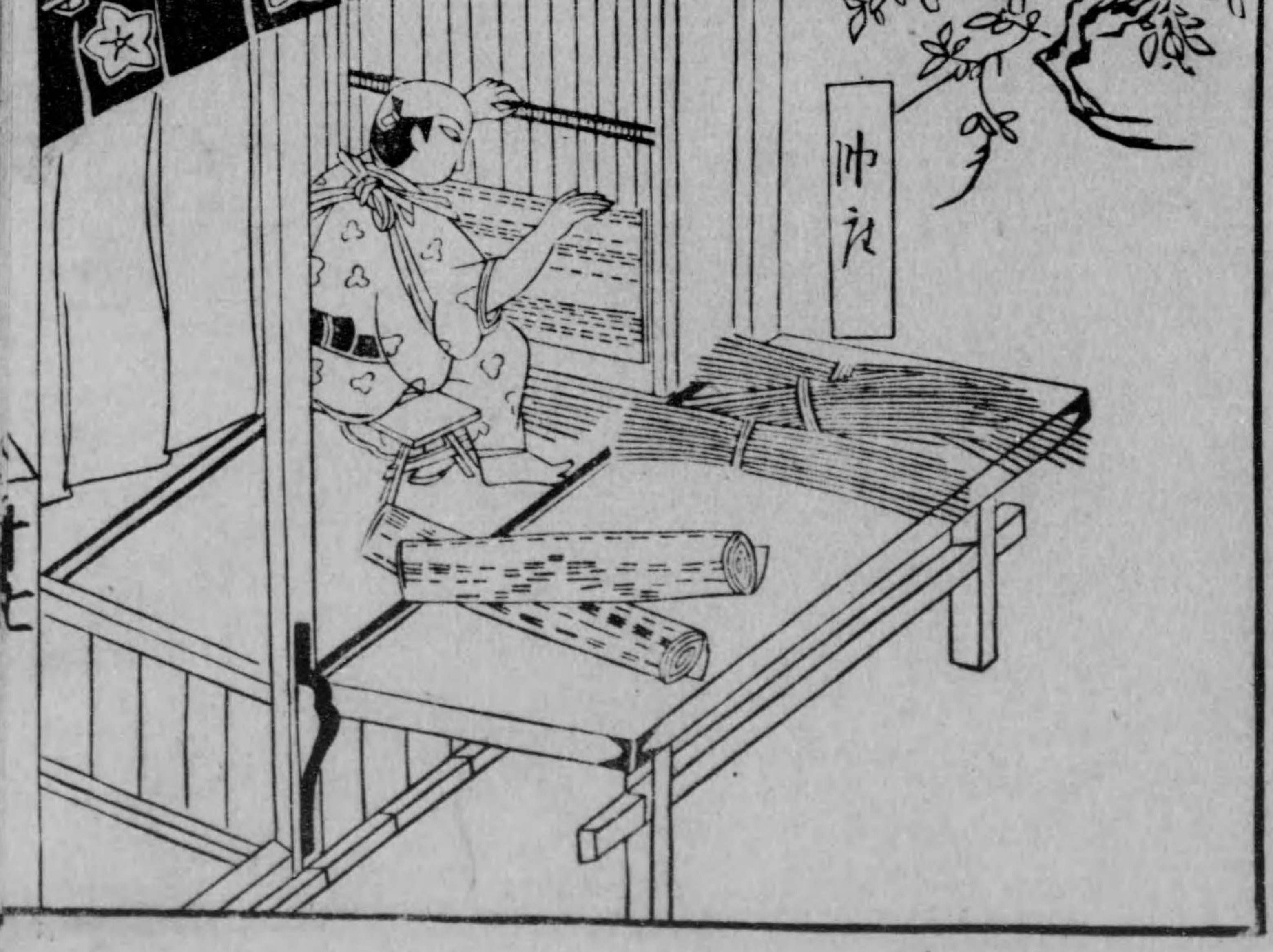
出るへ申もかつゆ
 なるかつゆり
 つものわく下
 とおとつて
 洞子の占ふ
 初伐 乃其よ
 能くつら
 して
 圓那に
 中能操師
 持教あれ



て中より石割と去能
 野良畑のわが川の里の
 石を伐りてて業くは
 海に柱の束るかこの女の
 けごきしてふるふつま
 業よ出りあり所よる
 伐屋の寺町並よあり
 大坂の橋場よあり大坂の
 津新島のつらふあり
 漆屋 野良畑のつらふあり
 とはよのつらふあり
 是もよのつらふあり



極てとよこ裁やりのあり
 尊根堀 高は台場
 尊根堀あり
 蕨根堀 ころびの粉ふ
 ころびとめらありのあり
 色あがりりごあり
 車巻 鳥羽に川の車
 備と古巻よありのあり
 御ん系川東所の水月三
 糸の下ありのあり



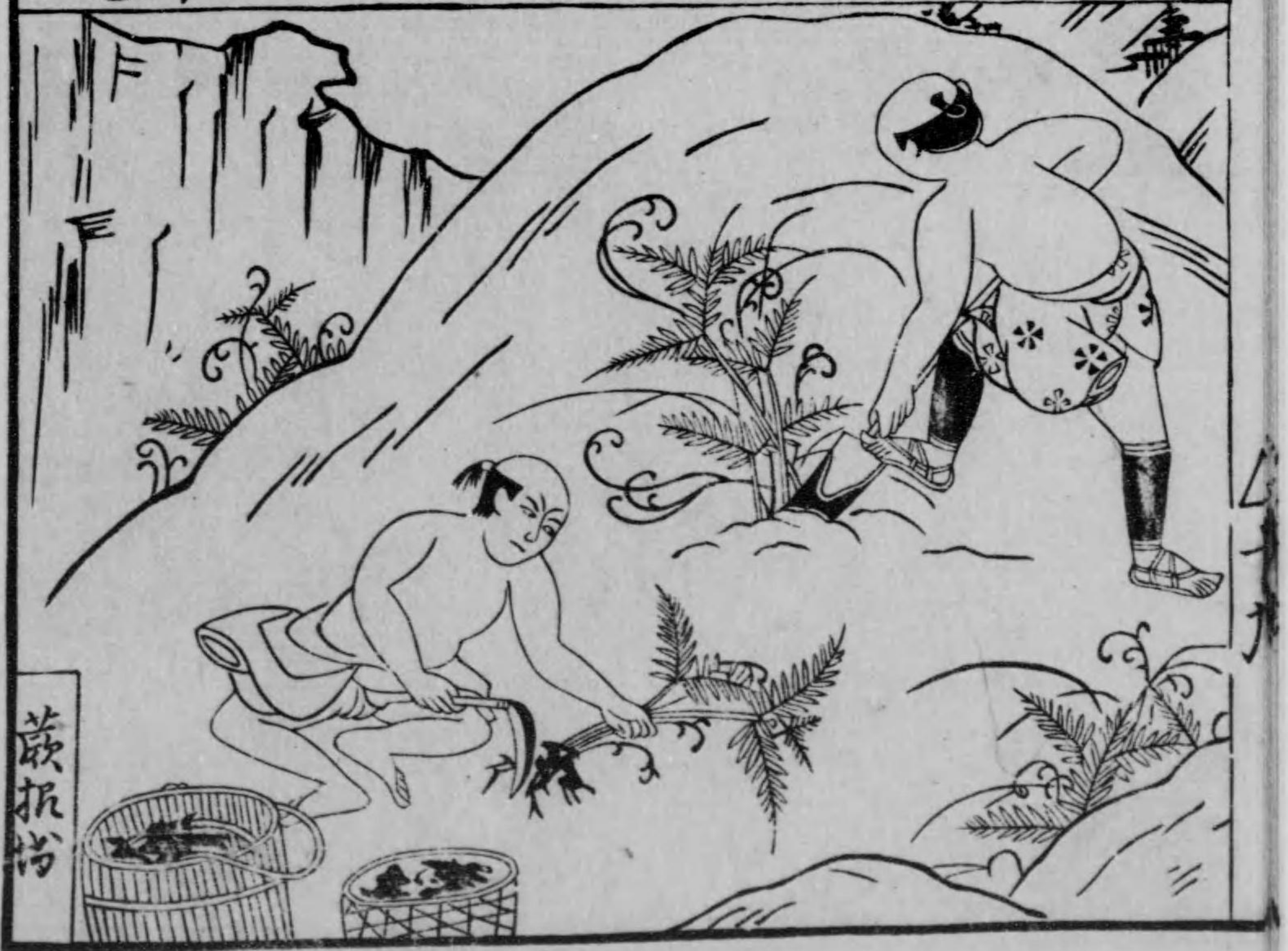
紙屑買 女の作業

てあくらと加らふりま
 流中流かどえんり後
 の紙がれ反たれやの
 かもてんあつての
 水も流る流るをらる
 買りのりておしる

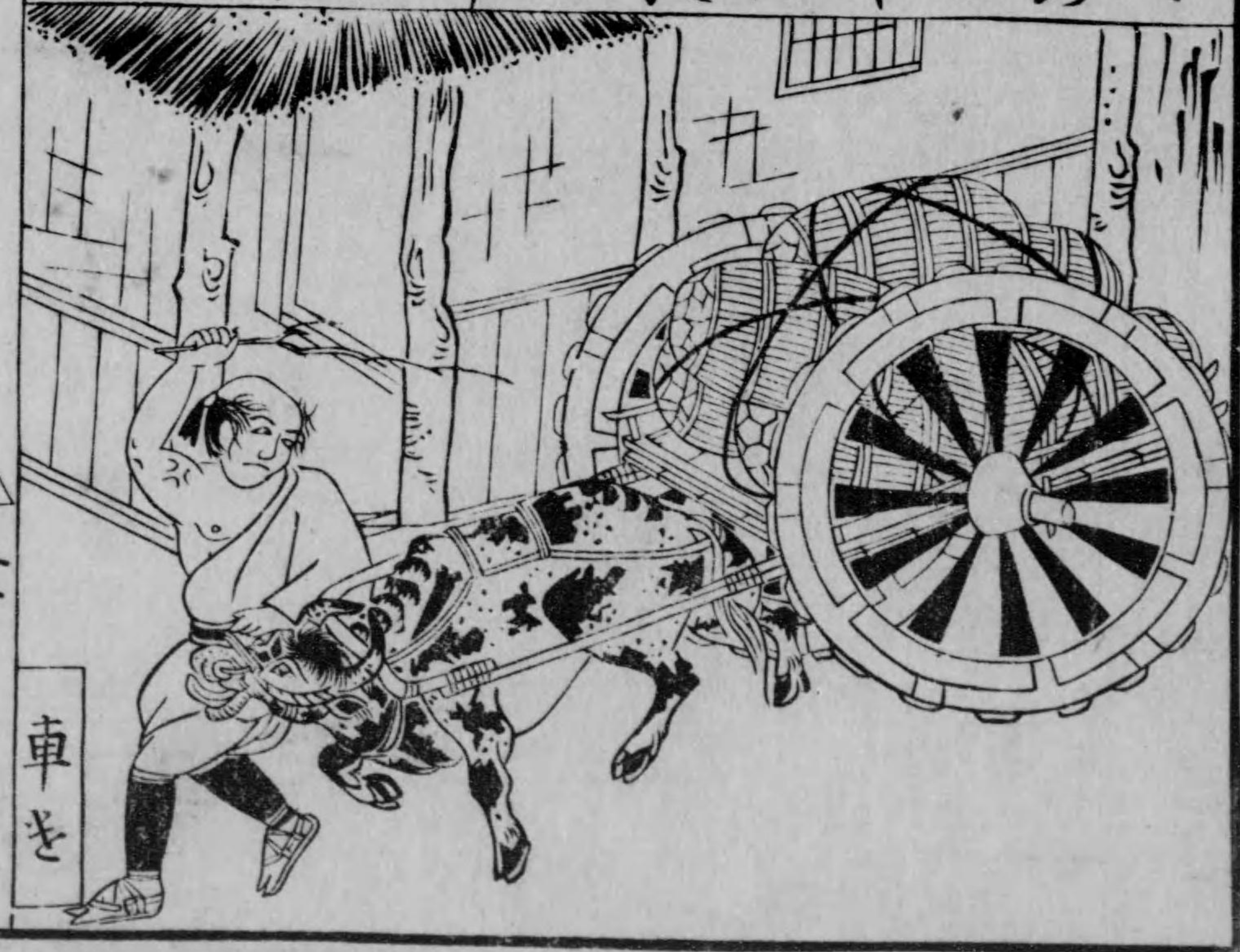
妙太夫 瘦牛よ縄袋

とかけくちとりの砂

つまききよおつて
 何ともしひくゆつよは
 んよ厚袋あ一人よ
 とりやうし神を
 してうらや
 け半牽どうし
 砂利二十女
 是れは
 もりく



蕨振



車ぎ

山椒皮賣

こまのなまこ

とゆけよあまのわらこ
 だんごほろこころなり
 是とこわこの知りぬ子
 とりぬめあずみ泉水
 ほとけちなくこころす
 山椒皮 女のうらまゑ
 とつとつあまのこころ
 山椒の皮めさねりと
 の町うらまのうらまゑ
 つらと名物と



山椒皮賣

たんのり

府法師源三郎筆

印行三百部之内
第一號

大正九年十月廿五日印刷
 大正九年十月廿一日發行
 第二期
 第四回
 東京市牛込區富久町八十四番地
 編輯發行所 山田清作
 東京市下谷區御徒町一丁目七番地
 印刷所 阿部鍋五郎
 東京市牛込區富久町八十四番地
 發行所 米山堂
 東京市牛込區富久町八十四番地
 米山堂

15
396

終

